

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	宇治福祉園 児童発達支援事業所 みんなのき しゅしゅ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日		令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 『原体験』の充実を図っている。 児童一人ひとりの発達段階や特性を踏まえ、それぞれに適した支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の様子や体調、気持ちの変化を丁寧に把握し、その時々状態に応じた関わりを心がけている。 必要に応じて個別での対応を取り入れ、安心して過ごせる環境づくりを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の状況や支援内容について職員間での共有をより一層深め、支援の質の向上を図っていく。 一人ひとりの興味や課題に応じた活動内容の工夫を重ね、より主体的に取り組める療育を目指す。
2	<ul style="list-style-type: none"> 室内環境を有効に活用し、活動内容や子どもの状態に応じて柔軟に支援の形を変えられる体制が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 静の活動では手先の操作や対人関係の形成を意識し、動の活動では身体を使った発散や挑戦の機会を設けている。 子どもの状況に応じて活動内容や空間を使い分けることで、無理のない参加を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の幅を広げるための検討を継続し、子どもの成長に応じた支援の充実につなげていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者支援と多職種連携の充実 保護者同窓会(ひなたぼっこ)の定期開催(年間11回) 子どもと大人の誰もが日常の幸せを創造していく場を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の不安や悩みまた、喜び等を共有し子どもと共に安心して通ってこれる場であるよう個別面談、電話、メール等の様々な発信源を設けている。 就学、就園、並行通園先、行政機関、学校、教育委員会、児童相談所、ひなたぼっこ(保護者同窓会)等ニーズに応じ速やかに連携をおこなえるネットワークが構築されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の報告等のコミュニケーションを通じて保護者とのより温かな関係性を深めていくように努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアルの整備は進んでいるものの、内容の整理や一元化が十分とは言えず、全体として把握しにくい状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの内容が多岐にわたり情報量も多いため、必要な情報を迅速に確認しにくく、実際の対応時に活用しづらい可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの整理・簡素化を進めるとともに、実際の場面を想定した形で活用しやすい内容へ見直しを行う。 園内研修等を通して職員間での共有を図り、全職員が必要な対応を理解し実践できる体制づくりを進めていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 書類作成等におけるAIの活用を進めているが、活用しながら修正している段階で、職員ごとに活用方法にばらつきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> AI導入の活用範囲、具体的な運用ルールが十分に整理されていないため、共通認識が形成されにくい状況にある。 活用方法について職員間での共有や検討の機会が十分でないことも要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> AI活用の基本的な運用方針を明確にし、事業所としての活用の方向性を整理していく。 活用事例の共有や研修等を通して職員間の理解を深め、一定の基準のもとで効果的に活用できる体制づくりを進めていく。
3			